

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『学童期児童における覚醒後過同期の特徴』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2019年11月22日より2022年12月31日までの間に、睡眠・覚醒障害研究部で「子どもの睡眠調節に対する睡眠恒常性機能と概日リズム機能の寄与(NCNP 倫理委員会承認番号:A2019-058)」の研究に参加された方

【研究期間】

2023年8月22日より2026年3月31日まで

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部

北村 真吾

研究名称:学童期児童における覚醒後過同期の特徴

利用目的: 覚醒後過同期とは、眠っている途中で目がさめると、徐波という深く寝ているときによくみられる

大きくゆっくりした脳波がみられるものです。もともとは4-5歳くらいまでの小さい子によくみられ

るものと思われていましたが、最近、おとなでもみられることがわかってきました。この覚醒後過

同期はしっかり寝ていられることに関係していると考えられていて、子どもの年齢が変わると

覚醒後過同期も変わると考えられますが、よくわかっていません。この研究では、これまでに上

に書いた研究でしらせさせていただいたデータを利用して、子どもの寝ているときの脳波で

作成年月日： 2023年 8月 7日 第1.1版

覚醒後過同期かくせいごかどうきの出方をしらべ、さらに年齢ねんれいや性別、ふだんの睡眠おそのとり方、早ね早おきか遅ねおそ遅おきかなどがどのように関係するかをしらべることを目的としています。また、覚醒後過同期かくせいごかどうきはいまのところ、経験けいけんのおおい睡眠検査技師すいみんけんさぎしが見て決めています、これを脳波のうはの波の数をしらべることで自動的に決めるルールを作ることができるかについてもかんがえます。

利用方法： 研究所に2回泊まったときの寝ているときの脳波データのうはと年齢ねんれいや性別のデータ、ふだんの睡眠のとり方のデータ、アンケートの回答をつかって、覚醒後過同期かくせいごかどうきの出方とどのように関係するかをしらべます。また、覚醒後過同期かくせいごかどうきを自動的に決めるルールを作ることができるかについてもかんがえます。

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

【利用する情報等】

情報等：寝ているときの脳波データのうは、年齢ねんれい・性別・身長・体重・からだの大きさのめやす(BMI)、ふだんの睡眠のとり方のデータ(寝た時間や起きた時間の記録、動きをはかる機械きかいのデータ)、早ね早おきか遅ね遅おきかについてのアンケート(CCTQ,MEQ,MCTQ)

利用する情報の取得の方法

情報：研究データから入手

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
所属 睡眠・覚醒障害研究部 氏名 北村 真吾
電話番号
e-mail:s-kita※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局
e-mail:ml_rinrijimu※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)
rinrijimu※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)